

蝶と蛾 *Tyô to Ga*, 38 (1): 55–56, 1987

房総半島産ヤマキマダラヒカゲ (*Neope niphonica kiyosumiensis*
TAKAHASHI et AOYAMA) の染色体

斎藤和夫：弘前大学理学部生物学教室 〒036 弘前市文京町 3

阿部 東：青森県立弘前高等学校 〒036 弘前市新寺町 1 の 1

熊谷義則：青森県立浪岡養護学校 〒038-13 浪岡町女鹿沢平野 215-6

高橋真弓：〒420 静岡市北安東 5-13-11

Notes on the Chromosomes of *Neope niphonica kiyosumiensis*
TAKAHASHI et AOYAMA (Lepidoptera, Satyridae)

Kazuo SAITOH: Department of Biology, Hirosaki University, Hirosaki, 036 Japan

Azuma ABE: Hirosaki High School, 1-1, Shintera-machi, Hirosaki, 036 Japan

Yoshinori KUMAGAI: Namioka Weak Children's School, 215-6,

Hirano, Megasawa, Namioka, 038-13 Japan

Mayumi TAKAHASHI: 5-13-11, Kita-andô, Shizuoka, 420 Japan

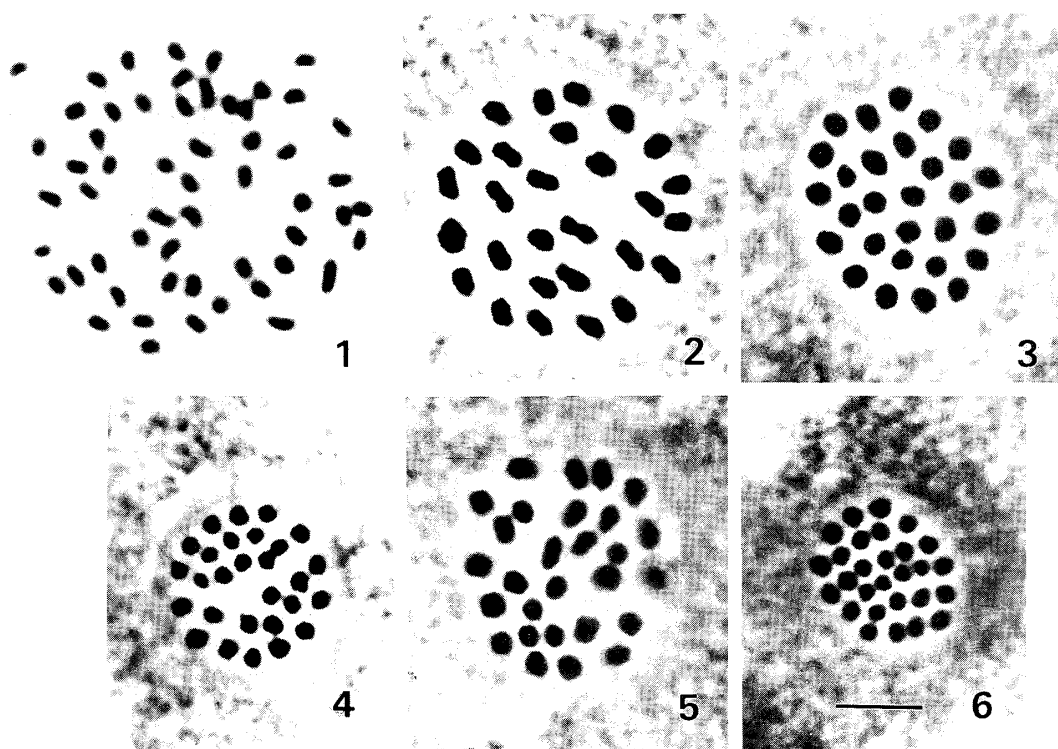
ヤマキマダラヒカゲの房総半島の亜種 (*Neope niphonica kiyosumiensis* TAKAHASHI et AOYAMA; 以下, 房総亜種と記す)の雄の染色体を観察した。

千葉県富津市荒木谷 (Arakiyatsû) 及び東大和田 (Higashiôwada) 産房総亜種ならびに静岡県修善寺町・戸田村境達磨山北方産原名亜種の飼育した蛹を用いた。荒木谷産 2 雄の Carnoy (3: 1) 固定精巢を 60% 酢酸中で破碎, 細胞を分散, 空気乾燥後, Giemsa (4%) 染色し, 染色体の重なりのない中期の 2 倍性細胞でその染色体数を確かめた。また, 両産地の房総亜種各 5 雄, 原名亜種 1 雄の精巢の乳酸酢酸オルセイン押しつぶし標本によって精母細胞染色体を調べた。原名亜種は比較のためのものである。

2n の染色体数は 8 中期像で確かめられた。また, 成熟分裂は押しつぶし標本の全蛹にみられ, 房総亜種の合計 1,078 (荒木谷; 第 1 分裂 355, 第 2 分裂 70, 東大和田; 388, 265), 原名亜種の 105 (78, 27) の中期像のすべてで染色体数を確認し, 同時に形態にも注意して精母細胞染色体を観察した。

検索の結果, 房総亜種で 2n, 56 の染色体が確かめられた (Fig. 1)。また, 両産地の房総亜種には精母細胞染色体数に変異はみられず, 共に n, 28 であった。各中期染色体は点状であり, 形態上特に注意を引く染色体はみられなかった (Figs. 2–4)。これらの所見は原名亜種の精母細胞染色体についても同じである (Figs. 5, 6)。

このように染色体によって両亜種を識別するには至らなかったが, 今後, 屋久島の亜種 (*N. niphonica marumoi* ESAKI et UMENO) との染色体の比較, これらの核 DNA 量の比較検討が望まれる。



Figs. 1 – 4. Chromosomes of male *Neope niphonica kiyosumiensis* ($2n, 56$; $n, 28$). 1. metaphase in a diploid cell; 2. first metaphase; 3. *ditto*; 4. second metaphase. 1. 2. 4. from Arakiyatsū-males; 3. from Higashiōwada-male. Figs. 5 and 6 Chromosomes of male *N. niphonica niphonica* ($n, 28$). 5. first metaphase; 6. second metaphase. Scale bar: ca. $5\mu\text{m}$.